

わたしの白河

ガイドマップ

今に残る 城下と宿場の風情

白河には、三大名所といわれる白河小峰城・南湖公園・白河闇跡に加え、旧奥州街道白河宿の風情を残す街並みがあります。

このガイドマップでは、白河に來られた皆さま方に、地元白河通がとおきの見どころを紹介しします。

白河小峰城

南湖公園

白河闇跡

旧奥州街道 白河宿

「わたしの白河 ガイドマップ」のお問い合わせ先

発行者 福島県南建設事務所（事務局）
TEL：0248-23-1617 FAX：0248-23-1642
E-mail：kennan.ken@pref.fukushima.jp

発行年月 平成21年3月（第1版）

このガイドマップは、平成20年度まちづくり懇談会で作成しました。

白河の略年表

1300年

鎌倉時代

室町時代

戦国時代

安土桃山時代

江戸時代

明治

大正

昭和

平成

8・9世紀 白河関が機能

1189 結城朝光、白河庄地頭となる

1289 頃 結城祐広が白河に下向

1333 結城宗広、新田義興らと鎌倉攻路

1339 結城宗広、出陣先で死去

14世紀中頃 結城小峰氏、小峰城築城

1467 応仁の乱

1468 飯尾宗祇、白河を訪問

1481 結城氏、鹿嶋神社で連歌興行

1510 結城氏と小峰氏が争う（永正の変）

1574 結城氏の内紛（天正の乱）

1590 結城氏、豊田秀吉により改易以後、蒲生氏が白河六郡を支配

1627 丹羽長重、白河に移封され白河藩成立

1632 小峰城の改修が完了

1637 島原の乱

1659 鹿嶋神社の神輿が造られる

1689 松尾芭蕉、白河を訪問

1702 赤穂義士の吉良邸討ち入り

1716 享保の改革

1783 松平定信、白河藩主となる

1787 松平定信、老中首座に就任寛政の改革

1791 松平定信、立教館を設置

1801 白河南湖の造営

1841 天保の改革

1868 戊辰戦争により小峰城焼失

1887 東北本線が開業

1889 大日本帝国憲法発布

1916 白棚鉄道開業

1921 白河駅移転開業（現在の白河駅舎）

1944 白棚線廃止（1957 バス転換）

1946 日本国憲法発布

1949 白河市政施行（人口31,483人）

2008年12月 人口約65,500人

① 結城桜、結城宗広の墓（関川寺）

江戸時代

地図C2

結城桜

結城宗広の墓

関川寺は、曹洞宗寺院の古刹で、江戸時代初期に、以前に結城氏の館であったと考えられるこの地に移転してきたと伝えられています。現在も中世のものと推測される土塁と堀の一部が現存しています。

境内には南北朝時代の武将 結城宗広の墓があり、春にはその名を取った結城桜が花を咲かせます。また、赤穂藩士の養子となり、赤穂義士に加わった中村勘助が、討ち入りを前に白河藩士だった実家を頼り、預けた妻の墓があります。

わたしのおすすめ ◆ 春には水芭蕉・チューリップ、夏には蓮の花、秋には銀杏並木や紅葉が見事です。春夏秋冬、いつ行っても美しいお寺です。 郭内：あさこ

② 宗祇戻しの碑

江戸時代

地図E2

宗祇戻しの碑

飯尾宗祇

飯尾宗祇は室町時代後期の連歌師で、鹿嶋神社での連歌興行に参加するた

め、都から白河へやってきたと伝えられています。この地で、綿を背負った娘に出会い、買う気もないのに「その綿は売るか？」と尋ねたところ、娘は「阿武隈の川瀬にすめる點にこそ うるかといへる わたは有けれ」と返歌しました。

【この近くの阿武隈川に棲んでいる點になら、うるかとい内膳（わた）はあります】

彼はその巧みな和歌に恐れ入り、歌会に出ずに、この場から都へ引き返したという伝説があります。

わたしのおすすめ ◆ 移り住んだ白河の名所旧跡を訪ねることに興味があります。名高い宗祇が娘の返歌に感心して都に帰るという伝説にロマンを感じます。 明戸：真理子

このマップで案内した場所には個人所有の住宅や社寺境内にも含まれています。どうか節度を守って楽しく散策してください。ゴミなどのお持ち帰りにもご協力をお願いいたします。

③ 丹羽長重公廟

江戸時代

地図D2

丹羽長重公廟

長重の墓

寛永4年（1627）に白河に入封して初代白河藩主となった丹羽長重は、同14年（1637）に江戸で死去し、現在の地に葬られました。長重の子、光重（みつしげ）が二本松に転封したあと、長重の墓所は白河に残されました。丹羽家の当主は参勤交代で白河を通るたびに墓参を行ったと伝えられています。

わたしのおすすめ ◆ 丹羽家の転封ですべてが二本松に移されたのに、長重公の廟だけが残されたのは何故なのか、今でもその謎は解き明かされていません。

④ 小峰城 外堀土塁

江戸時代

地図D2

小峰城 外堀土塁

外堀土塁

江戸時代に「十軒店」と呼ばれていた大きなカギ形の北に、小峰城の外堀土塁が残っています。現在は「ゆう工房」の庭になっていますが、切込ハギで組まれた石積みが見られ、春に咲くツツジも見事なことから、ツツジ祭を開催し、一般に公開しています。

わたしのおすすめ ◆ 築120年の工房の縁側や蔵から見る苔むした石垣が見事です。まもなく「蔵ギャラリー」もオープンする予定です。 本町郭内：織り染めの ゆう工房

⑤ 奥州街道白河宿

江戸時代

地図C2～D2

奥州街道白河宿

奥州街道白河宿

江戸時代、奥州街道に面する天神町・中町・本町・横町・田町は、「通り五町」と呼ばれ、賑わっていました。これらの町に加え、棚倉街道沿いの年貢町・桜町にも、多くの町屋が建っていました。白河には今でもその当時の町割が良く残っています。

わたしのおすすめ ◆ 現在では、表通りは商店街の店構えが並んでいますが、一歩裏道に入ると道路のように私道が巡っています。表からは見えなかった古い蔵など、情緒溢れる風景に出会えます。 本町：白陽

⑥ 乙姫桜（妙閑寺）

江戸時代

地図C2

乙姫桜

妙閑寺

妙閑寺（日蓮宗）にある乙姫桜は、濃いピンク色の花が鮮やかな紅しだれ桜で、樹齢は約400年と推定されています。

この桜は、仙台藩主 伊達政宗（1567～1636）が桜の苗木を将軍家に献上する途中、城下で休息した際、住職に所望されて、その内の一本を現在地に植えていったものと伝えられています。

また、境内には 151歳の生涯を生きたとされる白河藩主 林利左衛門（はやしりざえもん）の墓があります。

わたしのおすすめ ◆ 濃艶な花の色と赤門が一体となり、まわりに漂う香りも最高です。赤門を出た先の通りは、乙姫桜プロムナードとよばれる趣のあるみちで、みちの向かいの妙徳寺（みょうとくじ）には、薄い色の花を咲かせる見事なしだれ桜があります。二本の桜が咲き競う季節にぜひ来てみてください。 本町：桜の案内人 遠藤

⑦ 奥州白河いぼなしの鐘（龍蔵寺）

江戸時代

地図D2

奥州白河いぼなしの鐘

奥州白河いぼなしの鐘

龍蔵寺（真言宗豊山派）にあるこの銅鐘は、元禄4年（1691）に白河藩主 松平（奥平）忠弘が寄贈したもので、現在、国認定重要美術品となっています。「乳」と呼ばれる突起のないのが最大の特徴で、古来より、「奥州白河いぼなしの鐘」として知られています。

わたしのおすすめ ◆ 毎年、大晦日に突く除夜の鐘で、一番鐘を突いたのがわたしの役目です。ぜひ、すがすがしい鐘の音をお聞きください。 年貢町：石倉せんい店

⑧ 立教館跡

江戸時代

地図C1

立教館跡

立教館跡

立教館は、寛政3年（1791）に当時の白河藩主 松平定信により、武家屋敷だった会津町の一角に設置された藩校です。

11歳に達した藩士の子弟に和学・漢学・数学・舞楽などの学問と、柔術・弓術・砲術などの武芸の教育を行いました。定信もしばしば訪問し、視察を行ったと伝えられています。松平家の転封後は、白河に入封した阿部家が引き継ぎ、「修道館」という藩校を運営しました。現在は弓術などの的場の土塁のみが往事をしのばせています。

わたしのおすすめ ◆ 昔は、周囲は田んぼで、ここで遊びまわっていたのを思い出します。今はすっかり住宅地となっていますが、近隣の人たちが周囲に花壇を置いて花を植えたり、掃除をしたりして、史跡の保存に努めています。 会津町：トホウエ芸

⑨ 旧奥州街道沿いの趣ある建物やカギ形

江戸時代

地図C2～D2

旧奥州街道沿いの趣ある建物やカギ形

旧奥州街道沿いの趣ある建物やカギ形

白河宿は、幕府道中奉行の管轄下にあった奥州街道最後の宿場町で、小峰城の南側にはカギ形の通りが今も残っています。また、まちの基本構造もあまり変わらず、現在でも明治・大正期に建てられた建物が現役として使われています。

わたしのおすすめ ◆ 白河関（奥州の入口）にあたるこの場所で、情緒あふれる歴史のまち白河の良さと、伝統の着物の良さをしっかりと後世につないでいきたいです。 一番町：奈良屋

⑩ 城下町の町名・小路

江戸時代

地図C2～D2

城下町の町名・小路

日本には150を超える城下町を基礎とした都市がありますが、そのなかでも白河市街地は城下町の町割が比較的良く残されている例といえます。

今から約400年前の慶長年間（1596～1615）を描いていると考えられる古図には、奥州街道沿いの町割が、既に約6割方整備されている様子が描かれています。そのため、町には古くからの町名や通りの名前も残されています。

わたしのおすすめ ◆ 子供の頃の遊び場でしたが、ここには市内でも最大数の戊辰戦争の墓石があります。また、春の桜も圧巻です。 本町：富士コロッケ店

⑪ 小原庄助の墓（皇徳寺）

江戸時代

地図D2

小原庄助の墓

皇徳寺

皇徳寺（臨済宗妙心寺派）の境内の一帯奥まつた場所には、小原庄助（会津塗師 久五郎）の墓があります。

「朝によし 昼になほよし晩によし 飯前飯後その間もよし」と辞世に詠むほどの酒好きだったその人は、徳利、盃をかたどったお墓に眠っています。

わたしのおすすめ ◆ 「米汁呑了信士」米の汁すなわちお酒のことですが、いかにも小原庄助さんにぴったりの戒名です。「朝霞・朝酒・朝湯が大好き」の放蕩三昧に、男はロマンを感じるのではないのでしょうか。 大工町：有賀酒店

⑫ 戊辰戦争西軍兵士の墓（長寿院）

明治時代

地図D2

戊辰戦争西軍兵士の墓

長寿院

長寿院（曹洞宗）の境内には、戊辰戦争白河口の戦いにおける長州・大垣藩等の西軍の戦死者が祀られています。墓は一人ごとに建てられ、姓名や年齢が刻まれています。彼らの多くは16歳から20歳前後の勤王の志を抱く青年武士たちでした。

わたしのおすすめ ◆ 中庭には元帥伯島東郷平八郎護書の石碑と菊の御紋入灯籠があります。 本町：脇本陣当主

⑬ 脇本陣柳屋の蔵座敷

明治時代

地図D2

脇本陣柳屋の蔵座敷

江戸時代、本町には白河宿の本陣および脇本陣が置かれていました。脇本陣の柳屋は街道の北側にあり、現在はその蔵座敷が残っています。

戊辰戦争白河口の戦いの時には、新撰組の宿営地となり、明治14年（1881）の明治天皇東北巡幸の際は、行在所（あんざいしょ）となりました。

江戸時代、本町には白河宿の本陣および脇本陣が置かれていました。脇本陣の柳屋は街道の北側にあり、現在はその蔵座敷が残っています。

戊辰戦争白河口の戦いの時には、新撰組の宿営地となり、明治14年（1881）の明治天皇東北巡幸の際は、行在所（あんざいしょ）となりました。

わたしのおすすめ ◆ 中庭には元帥伯島東郷平八郎護書の石碑と菊の御紋入灯籠があります。 本町：脇本陣当主

⑭ 正岡子規の句碑（天神神社）

明治時代

地図C2

正岡子規の句碑

天神神社

天神神社は菅原道真を祀る神社で、天神町の名の由来となっています。小高い丘の上にある境内には、明治26年（1893）7月に俳人 正岡子規がこの地を訪れたときに詠んだ句碑があります。

「二十一日朝 町はづれをありく。森を見かけのぼれば 果て天満宮あり 境静かにして杉ざたり。 夏木立 宮ありさうな ところかな 」 「はて知らずの記」より

わたしのおすすめ ◆ 毎年 2月11日の白河だるま市には、神社境内で古いだるまや正月飾りを燃やす「どんと焼き」が行われ、大勢の参拝客で賑わいます。天神町：山木屋

⑮ 白河ハリストス正教会聖堂

大正時代

地図C2

白河ハリストス正教会聖堂

白河ハリストス正教会は、ギリシア正教会で、明治11年（1878）に発足しました。現在の聖堂は、大正4年（1915）に完成したもので、設計は西館ハリストス正教会と同じ設計者が手掛けました。

平面は十字形、屋根は銅板葺きで、外回りは板壁に白色塗料で仕上げられています。全体的にはビザンチン様式の雰囲気を感じさせている建物で、県指定重要文化財となっています。

わたしのおすすめ ◆ 司馬遼太郎が「野バラの教会」と呼んで愛した教会です。明治時代にロシアに留学してイコン（聖画）を学んだ女性、山下りんが描いたマリア像の前に立つと、心が洗われ感動がわき上がります。 愛宕町：昭和堂

⑯ JR白河駅舎

大正時代

地図D1

JR白河駅舎

大正10年（1921）に建てられた駅舎で、内部は改装されましたが、外観は建築当時の優美な姿がそのまま残されています。

正面の大きな三角屋根が印象的で、内部の待合室にはレトロなステンドグラスから柔らかな光が差し込んできます。

わたしのおすすめ ◆ ホームからは那須連峰の眺めがすばらしく、春には小峰城の桜を見るのにも最高の場所です。 JR白河駅長

⑰ 友月山公園

昭和時代

地図D2

友月山公園

友月山の頂上から見る白河の市街地

友月山は谷津田川の南にある小高い丘で、風光明媚な景観を愛した書家 大越友月が晩年まで過ごしたことから命名されました。昭和2年（1927）に当時の白河町に寄贈され、公園となりました。白河の市街地を一望できる場所として、市民に親しまれています。

わたしのおすすめ ◆ 古くから市民の憩いの場となり、今も多くの方に愛されています。春に桜、夏に紫陽花（あじさい）、秋には紅葉と、四季折々にその姿を変え、訪れる人の目を楽しませてくれます。谷津田川散策の途中にでも寄り道してください。 向新蔵：石原

⑱ 谷津田川せせらぎ通

平成時代

地図C2～D2

谷津田川せせらぎ通

まちなかを東西に流れる谷津田川沿いには、散歩が楽しめる「せせらぎ通り」が整備されています。

川沿いには、緑豊かな社寺や老舗染物屋の土蔵、復元された水車小屋などが建ち並んでいます。

階段を下りて、水辺近くの遊歩道にも足を踏み入れてください。紅葉やあじさいの時期には、一段と華やかな雰囲気になります。

自動車でおいでの方は、白河市役所や市民会館の駐車場をお使いください。

わたしのおすすめ ◆ 「谷津田川から創（はじ）めよう へのふれあい」というイベントのなかで、灯籠流しをやっています。夏の夜のひとときに、水面（みなも）をわたる風も楽しみに、ご一緒に見に行きませんか。 金屋町：ゆうちゃん